

橋詰広場の利用可能性に関する研究
 —東京都中央区に存在する橋詰広場の現状—

A Study on the Effective Use of Bridgehead Plaza
 —Current State of Bridgehead Plaza in Tokyo Chuo Ward—

○大西 淳¹, 桜井慎一²

1. 研究背景および目的

橋梁の袂にある橋詰広場は橋上空間と街路の結節点に位置しており、情報機能、商業機能、防災機能とさまざまな役割を担ってきた。現在では橋梁の架け替えの際の代替道路用地として利用することを基本に整備されているものが多い。このような将来的な開発のための空間余地¹⁾である橋詰広場は、架橋技術が進んだとはいえその存在意義は高いといえよう。また、橋梁の架け替えは実施時期が明確に定められておらず、長期間工事用地として利用しないため、平常時においてさまざまな利用可能性を秘めていると考える。そこで本研究は、橋詰広場の利用可能性を考究することを目的とし、本稿では橋詰広場の整備実態を把握する。

2. 研究方法

本稿では、橋詰広場が初めて制度化された帝都復興事業の計画地であり、現在でも数多くの橋詰広場が存在している東京都中央区を調査対象地とする。

東京都中央区に存在する橋梁のうち国土交通省、東京都および東京都中央区が管理する橋梁の中で、現在も河川の上に架橋されている 34 橋梁を対象とし、現地調査を実施した(表-1)。

3. 結果および考察

1 橋梁につきに 4 か所(上流・下流、右岸・左岸)の橋詰広場が存在する可能性があるが、現地調査の結果から、34 橋梁(136 か所:100.0%)に対し 78 か所(57.4%)の橋詰広場を把握することができた(表-2)。

表-1 調査概要

調査期間	2005年8月8日~15日、 9月12日~15日、17日、18日
調査対象地	東京都中央区に架かる 34 橋梁の橋詰広場
調査方法	調査員による現地での実測調査
調査内容	橋詰広場の規模、設置施設、形状、植栽の有無、河川空間へのアクセス、歩行者の立ち入り、道路からの可視性

表-2 現地調査結果

架設河川名	橋梁名	橋長	左岸			右岸		
			面積	設置施設	形状	面積	設置施設	形状
隅田川	両国橋	164.5m	173.4㎡	交番	台形	98.1㎡	なし(整備)	四角形
	新大橋	170.0m	54.0㎡	ベンチ	四角形	56.3㎡	ベンチ	四角形
	清洲橋	186.2m	285.5㎡	トイレ・ベンチ	四角形	68.5㎡	ベンチ	四角形
	清洲橋	186.2m	70.2㎡	ベンチ	四角形	261.7㎡	ベンチ	四角形
	隅田川大橋	210.3m	—	—	—	—	—	—
	永代橋	184.7m	229.1㎡	ベンチ	四角形	118.5㎡	ベンチ	台形
	永代橋	184.7m	615.1㎡	ベンチ	四角形	477.5㎡	ベンチ	台形
	中央大橋	217.7m	—	—	—	—	—	—
	佃大橋	220.0m	—	—	—	—	—	—
	佃大橋	220.0m	—	—	—	33.9㎡	トイレ	四角形
日本橋川	勝勝橋	246.0m	63.8㎡	なし(整備)	四角形	49.4㎡	なし(整備)	四角形
	勝勝橋	246.0m	51.3㎡	なし(整備)	四角形	577.5㎡	トイレ	台形
	一石橋	60.8m	58.9㎡	ベンチ	三角形	23.0㎡	なし(未整備)	四角
	日本橋	49.1m	84.1㎡	なし(整備)	台形	126.5㎡	ベンチ	四角
	日本橋	49.1m	81.1㎡	なし(整備)	四角形	49.4㎡	ベンチ	四角形
	江戸橋	62.9m	—	—	—	—	—	—
	江戸橋	62.9m	322.5㎡	トイレ	四角形	415.4㎡	なし(整備)	四角形
	鍵橋	56.7m	153.3㎡	ベンチ	三角形	48.0㎡	なし(整備)	台形
	鍵橋	56.7m	108.0㎡	トイレ	三角形	324.0㎡	ベンチ	台形
	茅場橋	57.0m	360.5㎡	ベンチ	台形	371.3㎡	ベンチ	四角形
朝潮運河	茅場橋	57.0m	402.5㎡	ベンチ	四角形	339.7㎡	トイレ・ベンチ	四角形
	湊橋	49.7m	40.0㎡	ベンチ	四角形	107.6㎡	トイレ・ベンチ	四角形
	湊橋	49.7m	40.0㎡	なし(整備)	三角形	96.0㎡	なし(整備)	四角形
	豊海橋	46.2m	23.1㎡	なし(整備)	三角形	40.8㎡	なし(整備)	四角
	豊海橋	46.2m	20.7㎡	トイレ	四角形	46.6㎡	ベンチ	四角形
	朝潮大橋	240.0m	—	—	—	—	—	—
	朝潮橋	86.0m	—	—	—	19.7㎡	ベンチ	四角
	朝潮橋	86.0m	—	—	—	21.8㎡	ベンチ	四角形
	晴月橋	95.5m	—	—	—	—	—	—
	黎明橋	88.2m	—	—	—	307.5㎡	トイレ	台形
晴海運河	朝潮小橋	112.5m	—	—	—	—	—	—
	相生橋	149.1m	—	—	—	829.1㎡	トイレ・ベンチ	台形
	春海橋	453.9m	—	—	—	—	—	—
新月島川	春海橋	453.9m	231.0㎡	なし(未整備)	四角形	62.6㎡	なし(未整備)	台形
	浜前橋	9.9m	—	—	—	—	—	—
月島川	新島橋	47.0m	211.2㎡	防災用具入れ トイレ	台形	100.1㎡	なし(未整備)	台形
	新島橋	47.0m	182.6㎡	ベンチ	台形	147.3㎡	ベンチ	台形
亀島川	西仲橋	43.2m	—	—	—	97.7㎡	トイレ	四角形
	月島橋	43.5m	73.1㎡	なし(未整備)	四角形	63.0㎡	なし(未整備)	四角形
亀島川	月島橋	43.5m	30.1㎡	なし(未整備)	四角形	116.1㎡	ベンチ	四角形
	霊岸橋	53.0m	175.7㎡	ベンチ	台形	—	—	—
	霊岸橋	53.0m	66.5㎡	トイレ	三角形	283.9㎡	なし(整備)	四角形
	新亀島橋	30.5m	58.1㎡	なし(未整備)	台形	130.2㎡	トイレ・ベンチ	四角形
	新亀島橋	30.5m	61.5㎡	なし(未整備)	三角形	122.4㎡	ベンチ	四角形
	亀島橋	32.4m	78.1㎡	なし(整備)	台形	68.4㎡	なし(整備)	四角形
	亀島橋	32.4m	106.4㎡	トイレ	台形	57.8㎡	なし(整備)	四角形
	高橋	34.7m	360.5㎡	トイレ・ベンチ	四角形	—	—	—
	高橋	34.7m	321.2㎡	交番・ベンチ	四角形	—	—	—
	南高橋	63.1m	43.1㎡	ベンチ	三角形	75.2㎡	ベンチ	三角形
神田川	南高橋	63.1m	—	—	—	65.2㎡	ベンチ	三角形
	柳橋	38.3m	—	—	—	—	—	—
佃小川	柳橋	38.3m	—	—	—	38.9㎡	なし(整備)	四角形
	浅草橋	35.8m	210.3㎡	トイレ	台形	256.6㎡	交番・ベンチ	台形
佃小川	浅草橋	35.8m	—	—	—	68.6㎡	なし(整備)	三角形
	佃小橋	12.5m	82.7㎡	トイレ	四角形	—	—	—
佃小橋	12.5m	—	—	—	—	—	—	
橋詰広場の総数						78 か所(57.4%) / 136 か所(100%)		
橋詰広場の総面積						12773.9㎡		

※各橋梁の上段は上流、下段は下流に対応する。

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

表-3 橋詰広場が存在しない要因

橋詰広場が存在しない要因	箇所
橋梁が高架のため	23(39.7%)
道路空間に利用しているため	16(27.6%)
民有地ため	13(22.3%)
公共施設があるため(消防署、排水機場など)	3(5.2%)
その他	3(5.2%)
合計	58(100.0%)

表-4 1橋梁に対する橋詰広場の数

1橋梁に対する橋詰広場の数	橋梁数
4か所	11(32.4%)
3か所	6(17.6%)
1か所	6(17.6%)
なし	6(17.6%)
2か所	5(14.7%)
合計	34(100.0%)

表-5 橋詰広場の面積分布

面積の分布(以上~未満)	箇所
~100㎡	39(50.0%)
100㎡~200㎡	15(19.2%)
200㎡~300㎡	9(11.5%)
300㎡~400㎡	9(11.5%)
400㎡~500㎡	3(3.9%)
500㎡~	3(3.9%)
合計	78(100.0%)

(1) 橋詰広場の整備状況

橋詰広場が整備されていない 58 か所のうち隅田川大橋や朝潮大橋のように「橋梁が高架のため」橋梁の袂が河川と陸地の接点より内陸側にあるので橋詰広場に相当する空間が存在しないものが 23 か所(39.7%)と最も多かった(表-3)。また、「道路空間に利用しているため」橋詰広場が消滅してしまっているものが 16 か所(27.6%)把握できた。

1 橋梁に対する橋詰広場の数は、4 か所すべて整備されているものが 32.4%(11 橋梁)に過ぎず、橋詰広場が全くない橋梁も 17.6%(6 橋梁)存在した(表-4)。

橋詰広場の面積に関しては 100 ㎡未満のものが 50.0%(39 か所)と全体の半数、次いで 100 ㎡~200 ㎡のものが 19.2%(15 か所)となっていることがわかる(表-5)。このように個々の面積は小さいものの、78 か所を合わせた総面積は 12773.9 ㎡にも達する。

(2) 設置施設

設置施設をみるとベンチ 46.0%(40 か所)、トイレ 20.7%(18 か所)と休憩所としての役割を担っている場所が多い(表-6)。また、10.3%(9 か所)が橋詰広場に相当する土地が存在するにもかかわらず未整備であるという現状が捉えられた。

(2) 形状

橋詰広場の形状に関しては、大正 12 年(1923 年)に示された復興街路計画の規準において橋梁の架け替え

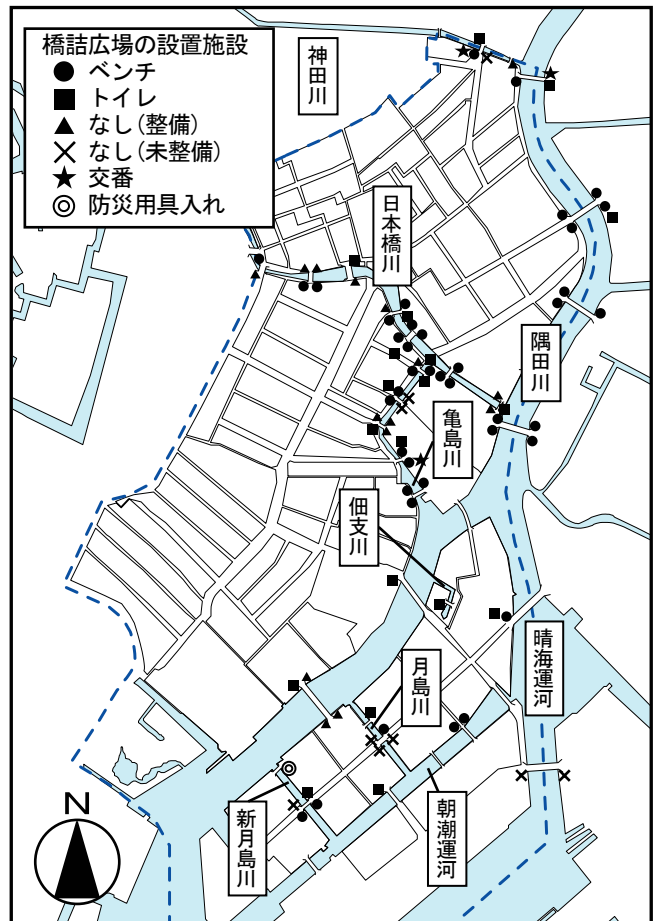


図-1 東京都中央区の橋詰広場の分布および設置施設

表-6 橋詰広場の設置施設

設置施設	箇所(重複利用あり)
ベンチ	40(46.0%)
トイレ	18(20.7%)
施設は設置せず広場として整備	16(18.4%)
未整備または工事中	9(10.3%)
交番	3(3.4%)
防災用具入れ	1(1.2%)
合計	87(100.0%)

表-7 橋詰広場の形状

形状	箇所
四角形	46(59.0%)
台形	22(28.2%)
三角形	10(12.8%)
合計	78(100.0%)

を考慮して「台形」とすることが定められた²⁾。しかし、現状をみると、四角形が 59.0%(46 か所)と最も多く、次いで台形の 28.2%(22 か所)となっている(表-7)。昭和 39 年(1964 年)の都市計画法の全面改正を経て、現在では橋詰広場に関する取り決めは特に講じられていない。そのため、隣地を不整形にすることのない四角形の形状が多くなったと考えられる。

【参考文献】

- 1) 東京都建設局:「橋台敷のあり方(設計基準案)」, p. 52, 1988. 3
- 2) 東京都中央区教育委員会社会教育課文化財係:「中央区の橋・橋詰広場」, p. 72, 1998. 3